



北御堂ゼミナール

「建築家 岸田日出刀と北御堂」

～造型意匠の権威が設計した
戦後の大阪に求めた新たな寺院像～

日時：2018年3月8日（木）

18:00～19:15

場所：本願寺津村別院（北御堂）本堂



撮影：下村しのぶ

講師：倉方俊輔さん

建築史家・大阪市立大学大学院工学研究科准教授
生きた建築ミュージアム大阪実行委員会委員

「寺院の形が変化するとしたら、それは信心が過去のものではなく、
現代の生活の中にあるからだ。」（『生きた建築 大阪』より）

無料

定員 360 名



＜画像出典：朝日新聞社『アサヒグラフ』1951年3月21日号＞

＜「生きた建築ミュージアム事業 大阪セレクション」2014年選定＞

建築家 岸田日出刀

さしたひでと（1899～1966）福岡県生まれ。

建築家・建築評論家・東京大学名誉教授・工学博士

建築の造型意匠の権威であり、日本建築学会会長、文化財専門審議会第二分科会専門委員、東京オリンピックの施設特別委員長などを歴任した。また、弟子の丹下健三を国立代々木競技場の設計により世界的建築家へと押し立てたことで知られる。手がけた主要な作品には、故内田祥三との共作東大安田講堂、同図書館、衆・参院議長公邸、高知県庁、本願寺津村別院など。著書も多く主要なものに、『日本建築史』『欧州近代建築史』『第11回オリンピック大会と競技場』『焦土に立ちて』など。

北御堂

本願寺第8代宗主蓮如上人は、明応5年（1496）に現在の大阪城のあたりに一つの小さな坊舎を建てました。それがのちの石山本願寺です。

その後、織田信長と石山合戦が起こり、本願寺は紀伊鷺森、貝塚、天満へと移転し、天正19年（1591）京都の現在地に寺基を移しました。そこで大阪の門徒は、天満に近い「樓の岸」に新しい坊舎を建立。慶長2年（1597）には「樓の岸」より「津村郷」の現在地に移り、津村別院は難波別院（南御堂）と並び『北御堂』と称され、御堂筋の名前の由来となりました。

しかし、昭和20年（1945）大阪大空襲により木造伽藍はことごとく焼失しました。そして昭和39年（1964）、岸田日出刀の設計により、寺院としての本来の信仰基盤や機能を保持しつつ、従来の木造建築に代わり、ホールや事務所などの都市的な施設を併せ持った鉄筋コンクリート造瓦葺・陸屋根地下1階付6階建という、近代建築へと大きく形態を変容させたのです。

主催

京阪神都市圏都市開教対策本部大阪支部
本願寺津村別院（北御堂）

後援
協力

生きた建築ミュージアム大阪実行委員会
御堂筋まちづくりネットワーク・船場げんきの会

